

2 社 会

(1) 調査結果の概要

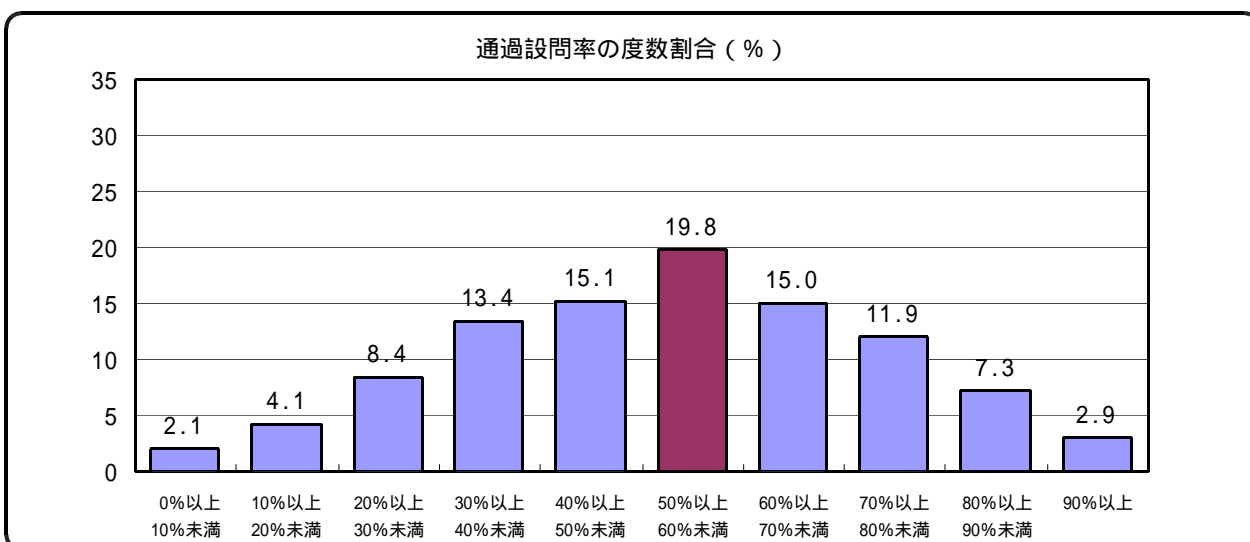
	受検者数(人)	平均通過率(%)	通過設問率が60%以上の生徒(%)
社 会	2144	52.3	37.1

おおむね良好

- ・ 室町時代や江戸時代の文化について理解すること。
- ・ 主な国々の名称と位置について理解すること。
- ・ 都道府県規模の地域の調査について理解すること

不十分又はやや不十分

- ・ 人口から見た日本の地域的特色について理解すること。
- ・ 地図やグラフなどの資料の意味を的確に読み取ること。
- ・ 歴史の大きな流れや各時代の特色をとらえること。



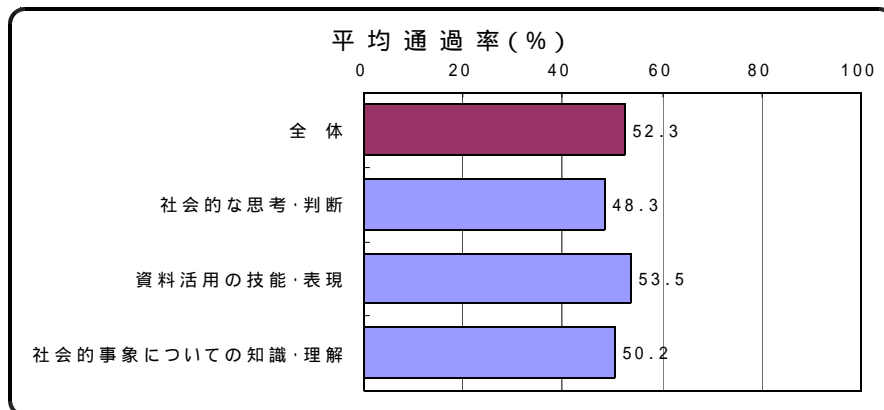
社会科の平均通過率は52.3%である。通過設問率が60%以上の生徒の割合は全体の37.1%にとどまっており、他の4教科と比較して少ない状況である。基礎的・基本的な内容の定着の度合いはやや不十分と思われる。

(2) 学力観点別状況の分析・考察・指導のポイント

「社会的事象への関心・意欲・態度」

学習実態調査において、地理の学習への関心、歴史の学習への関心、勉強が生活の中で役に立つことに関する設問の肯定者がいずれも6割を超えていることなどから、社会的事象への関心・意欲・態度の実現状況はおおむね良好であると考えられる。

「自分から調べる」「伝える」「理由・背景を考える」などの能動的な学習に関する設問の肯定者が4割未満である点は、これからの社会科授業の在り方を考える上での課題である。講義式の授業に偏らないよう配慮しながら、生徒にとって身近な学習材を取り上げた作業的、体験的な学習を工夫するなどして、身近なものから社会的事象を見いだして追究する面白さが味わえるようにすることが大切である。



「社会的な思考・判断」

5や8(1), 10(3)の通過率などから, 社会的事象の意義や特色を考えたり判断したりすることが不十分な傾向が認められる。諸資料から社会的事象や課題を見いだす活動, 複数の事象を比較したり関連付けたりして傾向性・規則性を導き出す活動, それらのもつ意味を考え端的にまとめる活動等を積み上げることが大切である。

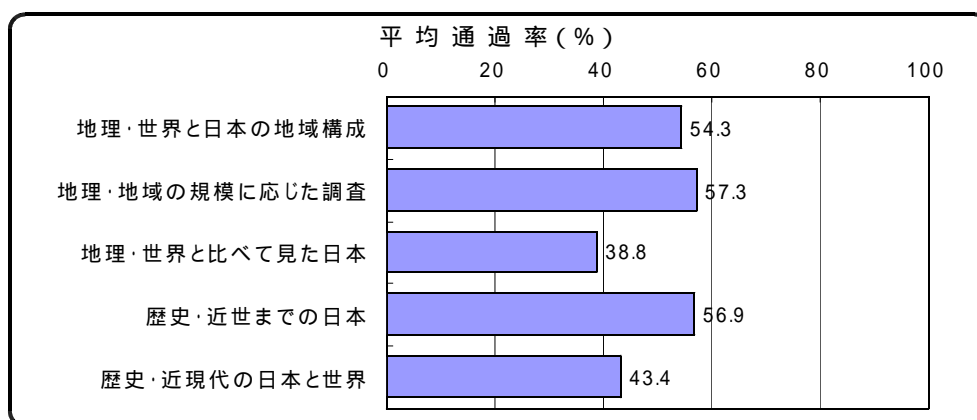
「資料活用の技能・表現」

2(1)や8(3)の通過率などから, 諸資料から有用な情報を適切に取り取り活用する技能が不十分な傾向が認められる。地図や年表を読んだり作成したりする活動, 新聞や統計などの資料から言えること, 考えられることをまとめ発表する活動等を積み上げることが大切である。

「社会的事象についての知識・理解」

7(1)A・Bのように通過率が8割を超える問題もあるが, 1や4(1), 4(2), 9(1), 10(1)など5割を下回る問題が多く, 知識・理解の実現状況に不十分な傾向が認められる。国名や都道府県名, 大まかな時代の流れなど, 地理的認識や歴史的認識の「座標軸」となるような知識を中心に, 適宜機会を設けて計画的に指導することにより, 確実に身に付けさせることが大切である。

(3) 学習領域別状況の分析・考察・指導のポイント



〔地理的分野〕

「世界と日本の地域構成」

緯度・経度と国境を表した世界地図から内陸国を答える問題の通過率が75.3%であ

ることなどから，主な国々の名称と位置についての理解はおおむね良好であると考えられる。一方，方位を不正確に表した都道府県別の地図の中から，岡山県に隣接していない県を選択する問題の通過率が4割を下回っていることから，都道府県の形状と位置についての理解は不十分であると考えられる。

「地域の規模に応じた調査」

都道府県の地域的特色を明らかにするための調査項目を選択する問題の通過率が62.6%であることなどから，都道府県規模の地域の調査についての理解はおおむね良好であると考えられる。

「世界と比べて見た日本」

年齢階級別人口のグラフから少子高齢化を答える問題や，IC工場が内陸部にも分布している理由を答える問題の通過率が4割を下回っていることから，人口から見た日本の地域的特色，日本の工業についての理解はやや不十分であると考えられる。

学習指導要領社会の地理的分野の内容は，「(1)」が世界や日本の地域構成を大観する学習，「(2)」は地域的特色をとらえる視点や方法の学習，「(3)」は「(1)」・「(2)」を踏まえて日本の地域的特色を大観する学習として構成されている。この趣旨を踏まえ，地理的分野の学習内容全体を見通して計画的に指導することが必要である。特に，都道府県の名称と位置などの国土認識の基本となる知識については，適宜機会を設けて計画的に指導することにより，確実に身に付けさせることが求められる。また，分布図や主題図などの地図を用いた学習を積極的に取り入れ「どこに，どのようなものが，どのように広がっているか」という問いによる事実に知識の習得を図るとともに，「そのように広がっているのはなぜか」という問いによる概念的知識の習得に留意して指導することにより，地理的な見方や考え方を身に付けさせることが大切である。

〔歴史的分野〕

「近世までの日本」

銀閣の写真を見てその特色や名称，築いた人物名を選択する問題の通過率が82.8%及び84.3%であること，オランダ正月の絵図を見て，新しい学問・思想の動きを選択する問題の通過率が75.1%であることなどから，文化や学問・思想についての関心・理解は高く，特に室町時代の文化や江戸時代後期の学問・思想についての理解はおおむね良好であると考えられる。

一方，鎌倉時代から室町時代にかけての政権の移り変わりを選擇する問題や，武家諸法度の資料を読み，制定された目的を記述する問題，百姓一揆と打ちこわしの年代別発生件数を表すグラフを見て，改革の名称を答える問題の通過率が4割を下回っていることなどから，鎌倉時代から室町時代にかけての政権，武家諸法度，天保の改革についての理解はやや不十分であると考えられる。

「近現代の日本と世界」

江戸幕府の滅亡の原因を選択する問題や，地租改正の目的を記述する問題，自由民権運動と大日本帝国憲法の制定について選擇する問題の通過率が4割前後にとどまっていることなどから，江戸幕府の滅亡，地租改正，自由民権運動と大日本帝国憲法についての理解はやや不十分であると考えられる。

歴史的分野の学習指導においては、個々の歴史的事象の学習にとどまらず、各時代の政治や経済、社会の特色とは何かを考えて端的にまとめたり、ある時代から次の時代へと移った原因を考えたりする学習を積み上げることにより、歴史の大きな流れをとらえる見方を身に付けさせることが求められる。その際、様々な資料を活用しながら、世界史の動きとの結び付きを考える活動や、複数の事象を比較したり関連付けたりする活動を工夫するなどして、多面的・多角的な見方や考え方を身に付けさせることが大切である。

(4) 設問別の分析・考察・指導のポイント

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	1	都道府県の構成と地域区分				37.2	<p>方位を不正確に表した都道府県別の地図の中から，岡山県に近接していない県を選択することができる。</p> <p>通過率が4割を下回っている要因の一つは，都道府県の名称は身に付けていてもその位置や形状までは身に付いていない生徒が多いことにあると考えられる。誤答のうち3（鳥取県地図）の反応率が27.8%と最も高かったのは，鳥取県と島根県を同じ山陰地方として混同してとらえている生徒が若干数いたためと考えられる。</p> <p>都道府県の名称と位置は国土認識の「座標軸」となる知識であり，「確実に身に付けさせる観点から，適宜機会を設けて計画的に指導すること。」と学習指導要領に示されている。そのためには，平素から地図を活用することにより方位の意識を高めたり，本単元の学習時だけでなく，定期テストの度ごとに都道府県名について出題することを予告しておいて学習の励みにさせたりして，その定着を図る必要がある。</p>
	2	(1) 地球上の位置関係				47.6	<p>(1)緯度・経度と国境を表した世界地図を見て，2地点間の時差を計算することができる。</p> <p>(2)緯度・経度と国境を表した世界地図から，内陸国を選択するとともにその名称を答えることができる。</p> <p>(2)の通過率から，大半の生徒が内陸国の概念を理解していると言える。</p> <p>(1)の通過率が5割を下回っている要因の一つは，地球の自転や経度と標準時との関係の理解が不十分な生徒がいたことにあると考えられる。ただし，正答の「日本より6時間遅い時刻」と，誤答ではあるが「日本より6時間早い時刻」を選択した生徒を合わせると68.1%となり，多くの生徒が「経度差15度で時差1時間」という概念は身に付けていると考えられる。</p> <p>時差の学習については，地球儀を生徒が自分で操作する活動を設定するなどして，自転と時刻の関係，経度と時差の関係などの原理を体感できるよう指導を工夫することが必要である。その上で，「経度差15度で時差1時間」という概念を，数学や理科の基礎的な公式のように取り扱い，反復練習をするなどしてその定着を図ることも考えられる。</p>
		(2) 国々の構成と地域区分				75.3	
	3	(1) 都道府県の調査				52.0	<p>(1)都道府県の統計表の示す意味を読み取ることができる。</p> <p>(2)都道府県の地域的特色を明らかにするための調査項目を選択することができる。</p> <p>(2)の通過率から，多くの生徒が都道府県の地域的特色を明らかにするための調査項目について理解していると言える。</p> <p>(1)の通過率がおよそ5割にとどまっている要因の一つは，誤答4の反応率が31.4%に上ることにあると考えられる。この選択肢には，統計表には挙げられていない「山がちな県」という表現があるにもかかわらず，全国第一位の水産物が二つ挙げられていることから「漁業がさかん」という表現に引かれて選択した生徒がいたと考えられる。</p> <p>学習指導要領社会の地理的分野の内容「(2) 地域の規模に応じた調査」の学習においては，地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けることが主眼であり，そのためには教科書等に整理された地域的特色そのものを理解するような学習だけでは不十分である。様々な資料の中から有用なデータを取捨選択したり，統計図表等の数値を読み取ってその特色をまとめたりする学習活動を積み上げることにより，統計図表の読み取り方，傾向性・規則性の導き出し方，それらのもつ意味を思考・判断・表現する方法などを身に付けさせることが重要である。</p>
		(2)				62.6	

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
4	(1)	人口から見た日本の地域的特色				51.9	(1) 世界の人口密度を表した地図から、日本は人口密度が高い国であることを読み取ることができる。 (1) 日本の総人口と町の人口の統計表から、過疎の問題に気付くことができる。 (2) 年齢階級別人口のグラフから、少子高齢化の問題に気付くことができる。 (1) の通過率から、過半数の生徒が日本は世界的視野から見て人口密度が高い国であることを読み取っていると見える。誤答の中に「多い」などの、ニュアンスは近いが表現が不十分なものも見受けられるため、図の意味内容をとらえることができた生徒は他にもいると考えられる。ただし、いわゆる穴埋め形式の問題で実質的には「高い」か「低い」かの二者択一の問題であることを考えると、十分な通過率とは言えない。
						46.9	(1) の通過率が5割を下回るとともに、無解答が29.6%に上っている要因の一つは、過疎という概念の理解が不十分な生徒がいたことにあると考えられる。 (2)の通過率が2割にとどまるとともに、無解答が27.3%に上っている要因の一つは、誤答の中に「高齢社会」などと「高齢化」か「少子化」のいずれかを示す語句しか記述していなかったり、誤った漢字を記述していたりするものが見受けられることから、少子化や高齢化それぞれの概念は理解していても、両者を合わせた「少子高齢化」という言い回しに不慣れな生徒が多いことにあると推察される。例えば、「少子化」又は「高齢化」を単独で答える形式の問題であれば、通過率はもう少し高くなることが十分予想できる。
(2)			20.0	我が国にとって少子化、高齢化に伴う課題は大きく、また、岡山県にとって過疎の問題は小さくはない。学習指導要領社会の地理的分野の内容(3)アの「(イ) 人口から見た日本の地域的特色」の学習指導に当たっては、「一つ又は二つの事例地域を通して具体的に扱うようにすること。」と示されている。生徒にとって身近に感じることのできる事例を取り上げた地域教材を開発し、授業で活用することを通して、人口構成や人口分布にかかわる問題の大きさに気付かせ、自分たちの将来にとって重大な課題であるという認識を養う必要がある。			
5		日本の工業				37.0	IC工場が内陸部にも分布している理由を記述することができる。 通過率が4割を下回っている要因の一つは、鉄鋼工場やIC工場の立地条件に関する基本的な認識が不十分な生徒が多いことにあると考えられる。また、無解答が33.4%に上っているのは、文章記述形式で解答することに対して自信がなかったり、意欲がもてなかったりする生徒がいたためと考えられる。 学習指導要領社会の地理的分野の内容「(3) 世界と比べて見た日本」の学習においては、内容(1)で培った世界や日本の地域構成の概念、内容(2)で培った地域的特色をとらえる視点や方法を踏まえて、様々な視点から日本の地域的特色を大観することが主眼である。そのためには、分布図や主題図などの地図を用いた学習の際、「どこに、どのようなものが、どのように広がっているか」という問いによる事実的知識の習得だけでなく、「そのように広がっているのはなぜか」という問いによる概念的知識の習得に一層留意する必要がある。

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
6	(1)	古代までの日本				47.9	(1)現在の岡山県に当たる地域における平安時代前期の出来事を選択することができる。 (2)鎌倉時代から室町時代にかけての政権の移り変わりを選択することができる。 (1)の通過率が5割を下回っている要因の一つは、誤答のうち選択肢3（平安時代末期の事象）及び4（古墳時代の事象）の反応率の合計が44.6%に上ることから、古墳時代、平安時代前期、平安時代末期それぞれの時代観が不十分な生徒がいたことにあると考えられる。 (2)の通過率が4割を下回っている要因として、次の二つが考えられる。第一に、中世は基本的に武家が政治の実権を握った時代であるという大局的な見方の不十分な生徒がいたこと、第二に、誤答である選択肢1の反応率が31.3%に上ることから、問題の趣旨を読み違い鎌倉幕府成立の時点での政権の移り変わりを選択した生徒がいたことである。 個々の歴史的事象の学習にとどまらず、ある時代から次の時代へと移った原因を考える学習活動を工夫するなどして、歴史の大きな流れをとらえる見方を身に付けさせる必要がある。
	(2)	鎌倉時代・室町時代				37.2	(1)銀閣の写真を見て、その特色や名称、かかわりの深い人物名を選択することができる。 (2)太閤検地と刀狩の資料を読み、それらの政策の歴史上の意味を選択することができる。 (1)のA及びBの通過率が8割を超えていることから、大部分の生徒が銀閣の特色や名称、築いた人物について理解していると言える。室町時代の文化は、小学校社会においても学習する内容であることや、映像資料に対するなじみ深さがその背景にあると推察される。 (2)の通過率から、多くの生徒が太閤検地と刀狩の歴史上の意味について理解していると考えられる。誤答のうち5の反応率が13.2%に上るのは、低い地位から天下人にまで上り詰めた秀吉個人のイメージから「下剋上」という語句に引かれて選択した生徒が若干数いたためと推察される。 歴史上の人物や文化遺産に対する生徒の興味・関心を生かしながら、それらを通史に位置付けて歴史の流れにおける意味を考える学習活動等を工夫することが重要である。
7	(1)	A	室町時代			82.8	(1)のA及びBの通過率が8割を超えていることから、大部分の生徒が銀閣の特色や名称、築いた人物について理解していると言える。室町時代の文化は、小学校社会においても学習する内容であることや、映像資料に対するなじみ深さがその背景にあると推察される。 (2)の通過率から、多くの生徒が太閤検地と刀狩の歴史上の意味について理解していると考えられる。誤答のうち5の反応率が13.2%に上るのは、低い地位から天下人にまで上り詰めた秀吉個人のイメージから「下剋上」という語句に引かれて選択した生徒が若干数いたためと推察される。 歴史上の人物や文化遺産に対する生徒の興味・関心を生かしながら、それらを通史に位置付けて歴史の流れにおける意味を考える学習活動等を工夫することが重要である。
		B				84.3	
	(2)	安土・桃山時代				63.8	
8	(1)	江戸時代前期				36.3	(1)武家諸法度の資料を読み、制定された目的を記述することができる。 (2)キリスト教の各派の資料を見て、幕府がオランダと貿易を行った理由を選択することができる。 (3)交通や特産物を表した地図を見て、交通網が発達した要因を記述することができる。 (1)の通過率が4割を下回っている要因の一つは、戦国の世がようやく治まりかけた時代にあつて大名統制のための法令が幕府には不可欠であったということに関する認識が不十分な生徒が多いことにあると考えられる。また、無解答が38.5%に上っているのは、文字数指定形式で回答することに対して自信がなかったり、意欲がもてなかったりする生徒がいたためと考えられる。 (2)の通過率が5割を下回っている要因の一つは、イエズス会の海外布教の動向やその背景などに関する認識が不十分な生徒がいたことにあると考えられる。 (3)の通過率がおおよそ5割にとどまるとともに、無解答が27.7%に上っている要因の一つは、生産地と消費地の広がりや交通網の発達とを関係付けてとらえるという基本的な社会認識が不十分な生徒がいたことにあると考えられる。 個々の歴史的事象の学習にとどまらず、各時代の特色とは何かを考えたり世界史の動きとの結び付きを考えたりして端的にまとめる学習を積み上げて、歴史の大きな流れをとらえる見方を身に付けさせる必要がある。
	(2)					48.2	
	(3)					51.5	

問題番号		出題の内容	評価の観点			通過率 (%)	= 出題のねらい, = 分析, = 指導のポイント
大問	小問		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
9	(1)	江戸時代後期				36.7	<p>(1) 百姓一揆と打ちこわしの年代別発生件数を表すグラフを見て、改革の名称を答えることができる。</p> <p>(2) オランダ正月の絵図を見て、新しい学問・思想の動きを選択することができる。</p> <p>(2)の通過率から、大半の生徒が、オランダ正月の絵図に現れたヨーロッパの文化や学問の影響を読み取っていると見える。江戸時代の三大改革の一つの名称を記入するという比較的単純な出題形式であるにもかかわらず、(1)の通過率が4割を下回るとともに無解答が24.1%に上っている要因の一つは、幕府の政治改革の名称や時期、背景等の認識が不十分な生徒が多いことにあると考えられる。</p> <p>幕府の政治改革については、江戸時代に関する学習の初期の段階から、やがて滅亡してしまうその原因を調べることが目当てにさせるなど、歴史の因果関係や大きな流れへの見通しをもたせておくことが必要である。その上で、改革が必要になった要因を、財政改革が中心になっていることに着目して調べる活動を工夫するなどして、財政悪化の背景となった社会の変動との関係や改革の結果等への理解を促すことが重要である。</p>
	(2)		75.1				
10	(1)	江戸時代末期				42.1	<p>(1) 幕府滅亡の原因を選択することができる。</p> <p>(2) 中江兆民の資料を読み、自由民権運動と大日本帝国憲法の制定との関係を選択することができる。</p> <p>(3) 農民の反応を表す資料を読み、そのことから政府の立場を推察して地租改正の目的を記述することができる。</p> <p>(1)の通過率はおよそ4割程度にとどまっているものの、「薩摩藩や長州藩」「倒幕運動」に言及した問題文イを含む選択肢4の反応率が20.1%であり、正答の反応率と合わせて62.2%の生徒が幕府滅亡の原因として「薩摩藩や長州藩」「倒幕運動」を認識していると言える。ただし、この時代とは直接関係のない「徳政令」に言及した問題文ウを選択した生徒が、合計39.6%に上っており、時代観の不十分な生徒の存在が認められる。</p> <p>(2)の通過率が4割を下回っている要因として、次の三つが考えられる。第一に、誤答のうち、小学校社会においても学習しなじみ深い「伊藤博文」の含まれる選択肢1の反応率が22.3%であること、第二に、誤答のうち、憲法が民主的な内容になったという趣旨の選択肢3の反応率が21.1%であること、第三に、選択肢の各文が比較的長く判断すべきポイントが多く含まれており、複雑な思考・判断が十分にできなかった生徒がいたことである。</p> <p>(3)の通過率が5割を下回っている要因の一つは、地租改正には富国強兵を目指す明治政府の財政収入の安定という目的や意義があるということに関する認識が不十分な生徒や、農民の立場の資料を手掛かりに視点を政府の立場に置き換えてその意味を考えることができなかった生徒がいたことにあると考えられる。また、無解答が35.2%に上っているのは、文章記述形式で解答することに対して自信がなかったり、意欲がもてなかったりする生徒がいたためと考えられる。</p> <p>明治維新における諸改革や憲法の制定についての学習においては、取り上げる事項を精選した上で、それらが歴史上どのような意味をもつのかを考える活動を工夫するなどして、近代国家形成の基礎を整える政策であったという歴史的意義をもつことへの理解を促す必要がある。また、自由民権運動に参加した人々の思いや願いと、憲法を制定した政府の方針とを調べて、両者を比較したり関連付けたりする活動等を工夫して、多面的・多角的な見方や考え方を身に付けさせることが重要である。</p>
	(2)	明治時代				39.8	
	(3)		43.5				